

第4回 松田町総合戦略審議会 議事録

1. 日 時 令和7年3月18日（火）10:00～11:30
2. 場 所 役場4階会議室
3. 出席者 委 員：別紙「委員等名簿」のとおり（吉田委員、栗林委員欠席）
町 側：別紙「委員等名簿」のとおり
事務局：政策推進課（鍵和田課長補佐、鎌田主査）
4. 配付資料
 - ・次第
 - ・パブリックコメントの募集結果について（資料1）
 - ・松田町人口ビジョン（改訂版）（資料2－1）
 - ・将来目標人口の達成に向けた政策展開（資料2－2）
 - ・総合戦略（素案）と総合戦略（案）の変更概要（資料3）
 - ・第3期松田町まち・ひと・しごと創生総合戦略（案）（資料4）
 - ・松田町の人口推移（参考資料1）
 - ・令和6年度第3回松田町総合戦略審議会議事録（参考資料2－1）
 - ・第3回松田町総合戦略審議会におけるご意見と対応方針（参考資料2－2）
 - ・数値目標及びKPI一覧について（参考資料2－3）
 - ・新しい地方経済・生活環境創生交付金関連事業について（参考資料3）

【概要】

司会進行（鎌田主査）

1. 開 会
2. あいさつ
3. 議 事

（1）素案に対するパブリックコメントの結果について

- ・事務局（政策推進課）より、パブリックコメントの募集結果について（資料1）の説明を行う。

古舘 会長：パブリックコメントについて事務局からご紹介頂いた。これについて何か意見はあるか。

パブリックコメントは1件とのことだが、少なくはないか。この程度か。

事 務 局：町の広報誌や SNS、町のホームページ、各自治会長宛てに送付させて頂いたところではあるが、計1件であったという結果である。近年、他の計画でもパブリックコメントはこういった結果が多くなっており、今回も1件となっている。

古舘 会長：1件ではあるが非常に的を得た良い意見である。寄地区を中心として「まち・ひと・しごと」の総合戦略にひとつ活かして頂きたい。

質問は特にないようなので次の議事に進めさせて頂く。

（2）第3期松田町まち・ひと・しごと創生総合戦略（案）について

- ・支援委託事業者（都市計画センター）より、松田町人口ビジョン（改訂版）（資料２－１）、令和６年度第３回松田町総合戦略審議会議事録（参考資料２－１）の説明を行う。
- ・事務局（政策推進課）より、第３回松田町総合戦略審議会におけるご意見と対応方針（参考資料２－２）、数値目標及びKPI一覧について（参考資料２－３）の説明を行う。
- ・事務局（政策推進課）より、総合戦略（素案）と総合戦略（案）の変更概要（資料３）、第３期松田町まち・ひと・しごと創生総合戦略（案）（資料４）の説明を行う。
- ・支援委託事業者（都市計画センター）より、第３期松田町まち・ひと・しごと創生総合戦略（案）（資料３のP11）、将来目標人口の達成に向けた政策展開（資料２－２）の補足説明を行う。

古舘 会長：事務局から説明があったが、皆様から何か質問、意見はあるか。

前回からの変更点の説明と、参考資料２－３でそもそもKPIがどういう根拠に基づいて出たのかというのも前回質問があり、これについても回答して頂いているため分かりやすくなったという印象をもっているが、皆様はどうか。

西田 委員：数字に出せるものではないかもしれないが、基本目標３のところで「農林業の振興」と、あると思うが、KPIで出すとすれば、おそらくこういった形になるが、特に農林業は若い方が定着して携わってくれるような施策を進めていくことが必要で、第一次産業に関わる方の収入は一般的に低くなっており、そこをどう確保していくのかを考えておく必要がある。若い方に農林業を学んでもらい、スマート農業として効率的に進めてもらうことも必要だが、その人たちの収入をしっかりと確保して松田町に住み続けてもらい、子育てもしてもらい、最期まで住んでもらえるような対策も併せてできていればよりベストかと思う。

遠藤 課長：おっしゃる通り、収入もしっかり確保した中で住み続けて頂きたいと考えている。農林業アカデミー開講とも連携した取り組みで町としてもこういった施策を進めていくかといったところを考えていきたい。

鈴木 参事：令和７年度の予算の中に、農地の保全や農業振興を目的とした各種支援制度も継続して展開する中で、今までの新規就農者等の担い手の補助金で農業系収入保険加入促進補助金などを継続し、新たに２つの補助金の中に農業資機材等の購入支援補助金や耕作放棄地再生補助金などを展開していくことも含め農業振興にあたっていくということで町の方向性を示している。こちら補足とさせて頂く。

古舘 会長：その他あるか。

重田副会長：パブリックコメントについてだが、不勉強で恐縮であるが、村井純氏の著作“インターネット文明”によると「日本ほど上り回線が強い国はほとんどない」とのことだがそうなのか。

事務局：本人に趣旨まで確認していないが、そのようである。

重田副会長：インターネットが充実しているからどこにいてもテレワークができるといったようなことだと推察する。別の地域に勤め先があるような人の受け入れ環境を整えればそこに勝機がみえるというようなことかと考える。

地方創生を考えるにあたっては、どれだけ人を集められるか、どれだけ居続けてもらえるかということが重要に思う。委員の皆様から頂いた意見をKPIの中でまとめて頂いていると思っているが、最終的には移住定住というところが重要になってくる。先ほどの話の中でも、まずは交流人口をどう増やしていくか、というところが重要だと思う。

感想めいた話になってくるが、私は平塚に在住しており、地元のテニススクールクラブでジュニアのテニス合宿が行われるというチラシが置いてあり、場所が寄地区のテニスコートを利用するとのことであった。私がこういった仕事をしていることもあり、コーチにどういった経緯で寄を選ばれたのか聞いたところ、「3面のコートを広々借りられる地域はあまりなく距離的にもさほど遠くないため」とのことであった。ご説明の中ではなかったが、参考資料3の中で「スポーツツーリズム推進拠点整備事業」ということで寄のスポーツ振興の話や、国際交流、観光施策などを利用しながら、まずはとりあえず一度来てもらうことが重要なのではないかと感じた。

古舘 会長：この資料3については、後ほど説明があるかと思うがスポーツツーリズム推進拠点整備事業について何か補足があればお願いしたい。テニスコートなどの話もあったが。

遠藤 課長：スポーツツーリズム推進拠点整備事業ということで、今年度みやま運動広場は名称変更し、グラウンドを人工芝化した。来年度はグラウンドの照明設備の入れ換え、隣の管理センターを改修し、町内外の利用者を獲得できるよう情報発信に力を入れ、町の核となる施設を目指し整備を行っている。テニスコートについてもスポーツツーリズム推進拠点整備事業で令和8年度に改修する計画であるが、スポーツを通して交流人口、関係人口を増やしていくという町の取り組みを今年度から進めている。

西田 委員：施策については概ね固まってきたと思うが、PRの部分が重要である。率直に言えば神奈川県のだこの市町村も似たような取り組みをしていることが多い。調べてこの情報にたどり着いた人はどこも同じ事をやっているという感覚であると思う。どれだけ上手に取り組み内容をPRできるかによって成果は変わってくる。キャパが決まっている中で取り合いをしているような状態なわけであるから他の地域とはここが違うというところをいかに上手く出せるかというところをしっかりとって頂ければより効果が大きくなると思う。

鈴木 参事：これについては毎年議会から指摘をされている。開成町の例を出すと、キャッチフレーズ「田舎モダン」も人を集める要素であるといった指摘を受けている中で、今回令和7年度に70周年記念事業ということで、SNSなども含めも関連付けて周知を進めていく。定住少子化担当室の方でも都心に行って直接移住者の声を聞き、情報提供していく。例えば岡山県に奈義町という町があるが、出生率が2014年に2.8という高い数値が出ている。奈義町の首長や担当課長と何故そういったことになっているのかと伺ったところ「大したことはしていない。PRとして『子ども子育て応援宣言』というキャッチコピーの元、町をあげて行っている。」とのことであった。今回松田町でも『子ども子育て応援宣言』をしっかり掲げ、松田町に住んでもらう一つの取り組みとしてPRしていきたいと考えている。引き続き先進地の視察も含め、PRに取り組んで行きたい。

古舘 会長：私も他にもこういった審議会などに出席させて頂いているが、やはりPRが下手だと感じる。ぜひ寄という恵まれた自然などを上手く出しながら移住促進に結びつけて頂きたいと思っている。
その他何かあるか。

内沢 委員：一点確認させて頂きたい。資料2-1の松田町人口ビジョン（改訂版）特に10

ページについて、令和5年の転出総数が324人、転入総数が1071人で750人程度転出している。参考資料1の数値と比べると合っていないが何故か。

事務局：松田町人口ビジョン（改訂版）の10ページは、転入転出状況を見て頂くと転入総数が324人、転出総数は1071人というようになっているかと思う。これについては統計の仕方に違いがあり、転出先を先に見て頂くと愛知県東郷町や東京都武蔵村山市など、やけに遠方になっていると思うがこれは外国人の研修施設が山間部に設立され、研修後に愛知や東京に出て行っているという状況の表になっている。一方で転入の総数には外国人研修生の転入数が反映されていない。本来は転入の方にも愛知県東郷町に移動している110人が追加されていなければならないはずだが、統計上そういった記載になっているため、数値に誤差が表れている。

古舘 会長：確かに数値にずれがあり、私も質問しようと思っていた。これは外国人が研修を受けた後、まとまって愛知県のほうに転出しているといったことが起こっているのか。そうすると、外国人を除いた転出数も調べれば出てくる訳か。

事務局：そうである。

古舘 会長：了解した。その他何かあるか。

ないようなので、資料4の松田町の第3期松田町まち・ひと・しごと創生総合戦略（案）はこれで承認頂いて良いか。

この内容で承認させて頂く。

議事は（2）まで終了したので（3）その他の説明をお願いしたい。

（3） その他

・事務局（政策推進課）より、松田町の人口推移（参考資料1）、新しい地方経済・生活環境創生交付金関連事業について（参考資料3）の説明を行う。

古舘 会長：ただ今、参考資料1と参考資料3について事務局から説明頂いたが、何か質問があればお願いしたい。

田中 委員：感想になってしまうが、参考資料1の松田町の人口推移についてということで、仕事の考えで申し訳ないが、自然増減と社会増減のところで自然増減については出生と死亡ということで少子化対策に既に色々手を打って頂いていると思うが、社会増減については単純に松田町から出ていく方、入ってくる方であるため、ここの転入をいかに増やすかが非常に重要になると思う。

銀行では来店して頂けるお客様を非常に大事にしており、わざわざ交通費をかけ、時間をかけて来店して頂いているということでそういったお客様にファンになってもらうということが一番のミッションと考えている。住民票を移した方などもそのタイミングで窓口に来られることがあるが、そのとき何故この支店を選んで頂けたのか簡単なアンケートを取っている。町でも転入してきたタイミングでアンケートを取り、今まで知らなかった良さを知るきっかけになるのではないかと考える。新しく来て頂いた人の意見というのが重要だと考える。行政の人間が考えるというのもいいが、直接ご意見を頂くというのが最も改善につながるのではと考える。

古舘 会長：これについて事務局の方から何かあるか。

鈴木 参事：アンケートというのが非常に重要で、平成 26 年に私が定住少子化担当室になった時から、窓口アンケート用紙を置いて強制はできないが極力全員の方に行っている状況があった。現在も強制はせずに転入転出のときに行っている。例えば直近のデータでは転入の大きな 1 位は就職、転勤など「仕事」で転入したといった意見が 61.1%、2 位が新築、住み替えなど「居住」によるものが 11.1%、3 位が「結婚」というような結果となっている。そんな中で自由意見では、転出をされた方の中に要望を記載して頂いたケースもある。特に多かったのが「スーパーの設置」が非常に多く、また「スポーツ施設があったら良い」、「図書館の本の充実」や「駅周辺の早急な整備」、「とても住み良い場所だった」などの意見を頂きながらアンケートを取っている。引き続き意見を大事にし、町の施策に活かし取り組んで行きたいと考えている。

古舘 会長：その他に何かあるか。無いようなので今後の予定などを説明頂いた後、重田副会長の方からご挨拶頂きたい。

事務局：4 回に渡って審議会に参加頂き感謝申し上げます。こちらを最終案として諸手続きを経て、町のホームページの方に掲載させて頂きたいと思う。

今後の総合戦略の進行管理、進捗管理により、確実に進めていくことが大事になるので来年度以降も引き続きご協力をお願いしたい。

古舘 会長：最後に副会長から挨拶をお願いしたい。

重田副会長：来年度の県の方の地方創生関連の取り組みについてお話させて頂く。先月の 14 日に松田町に参加頂いて、東京のふるさと回帰支援センターで「移住セミナー」を開催させて頂いた。予定としては来年度も市町の皆さんに声がけさせて頂きながら移住セミナーを県の方で開催していこうと思っている。また、「西湘足柄移住コンシェルジュ」ということで移住の窓口を来年度も行っていきたいと思う。また、実際に来て体験するというので「移住体験ツアー」としてこちらから来年度も進めていく方向で現在動いている。移住定住の関係では毛色の違うアプローチの仕方ではあるが、中高生の方に地元に着着を持ってもらい、将来もここに住みたいと思ってもらえるようなアプローチの仕方から今年度から若者を対象とした未来を考えるプロジェクトとして、具体的には中高生の方に集まって頂き地域課題を発見してもらい、実際にそれぞれの地域で取り組んでもらい最後に発表してもらうという取り組みがある。令和 5 年度も行っており、最終報告会には町長にも来てもらうということをやらせて頂いた。そういった活動も含め、若い方にも地元に着着を持ってもらうということを推進していきたいと思っている。観光のほうのアプローチもあり、地域資源の磨き上げに取組ませて頂くというものも来年度から始めていく。また回遊性を高めるということも重要と思っており、脱炭素と絡めて「脱炭素モビリティ」として電動キックボードなど県西地域を広く回遊できるように設置させて頂くようなことも考えている。松田町に関しては立花学園周辺に電気自動車、駅近くのイタリアン前の駐車場に電動キックボードを設置させて頂いているが、そちらの事業も引き続き進めていきたいと考えている。こういった様々な施策を町の皆様と連携しながら進めていきましてぜひともこの地域の活性化につなげていきたいと思うので今後ともご協力をお願いしたい。

4. 閉 会